

未来を描く資産づくりセミナー
～ 一歩進んだ資産運用を学ぼう！ ～

第3回

投資信託で資産を育てる！商品選びと運用戦略

～目的に合ったファンド選びと運用スタイル～

FP相談 エニーライフラボ

M O N E Y

1. 復習:何で運用すれば良い?(金融商品)

2. 投資信託の選び方

(1)運用スタイル

(2)手数料

(3)投資先

(4)投資のタイミング

(5)分散投資

(6)分配金

3. まとめ

代表的な金融商品(いずれも税引き前)

種類	利回り(平均)	元本保証	備考
普通預金	0.1%程度	有り	都市銀行、地方銀行の場合
定期預金	0.1~0.15%程度	有り	都市銀行、地方銀行の場合
個人向け国債	0.74%	有り	固定3年、固定5年、変動10年
個人年金保険	0.4%程度	有り/無し	
債券	0.5%程度	無し	
株式	5~10%程度	無し	
不動産(REIT)	3.6%程度	無し	

2024年、金利のある世界は復活したものの、まだまだ低金利 → 資産運用の中心は株式

株式で運用するには 2

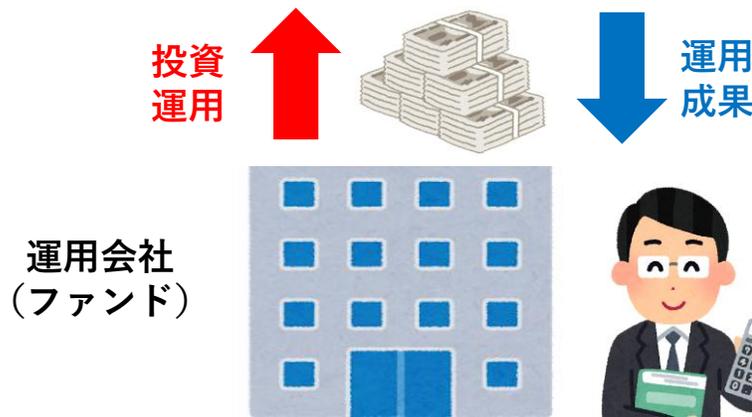
初心者にも最もお勧め

運用会社にお任せする = 投資信託

投資信託の特徴

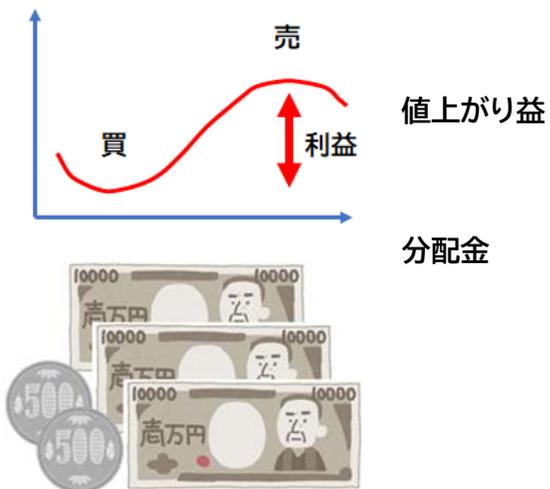
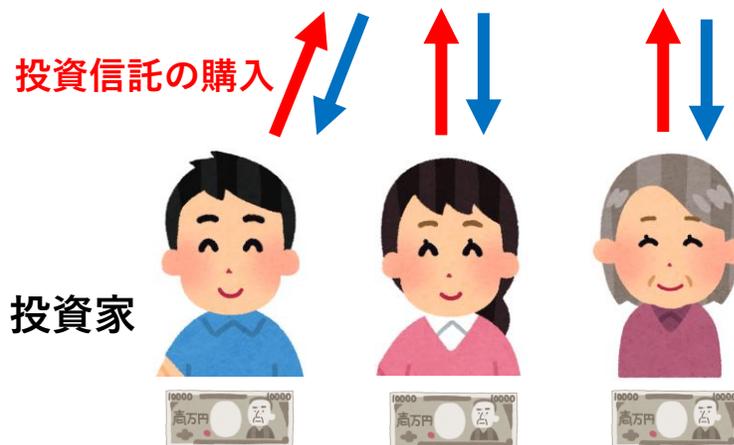
- ・投資家は**投資信託**を購入するのみ
- ・運用はプロにお任せする
→運用中は分配金を得られる
(再投資資金にもできる)
- ・投資家は自分の都合で売却できる
(値上り益を得られる)
- ・株主優待は無い

金融市場
(株式・不動産・債券)



実際は以下の3社で構成

- ・受託者
売買、資金管理を行う信託銀行
- ・委託者
運用の指図を行う投資信託委託会社
- ・販売会社



少額(100円~1,000円) → 失敗のリスクも小さい

投資信託の種類

	国内		海外
株式	国内株式型	バランス型	海外株式型
債券	国内債券型		海外債券型
不動産	国内REIT型		海外REIT型
その他	コモディティ(商品)など		

- ✓ 投資対象資産 : 株式、債券、不動産、コモディティ(商品)、バランス型
- ✓ 投資対象地域 : 日本国内、海外(先進国、振興国、全世界)
- ✓ 投資運用手法 : インデックス運用、アクティブ運用
- ✓ 取引形態 : 公募投資信託、私募投資信託、上場投資信託(ETF)

1. 復習: 何で運用すれば良い? (金融商品)

2. 投資信託の選び方

(1) 運用スタイル

(2) 手数料

(3) 投資先

(4) 投資のタイミング

(5) 分散投資

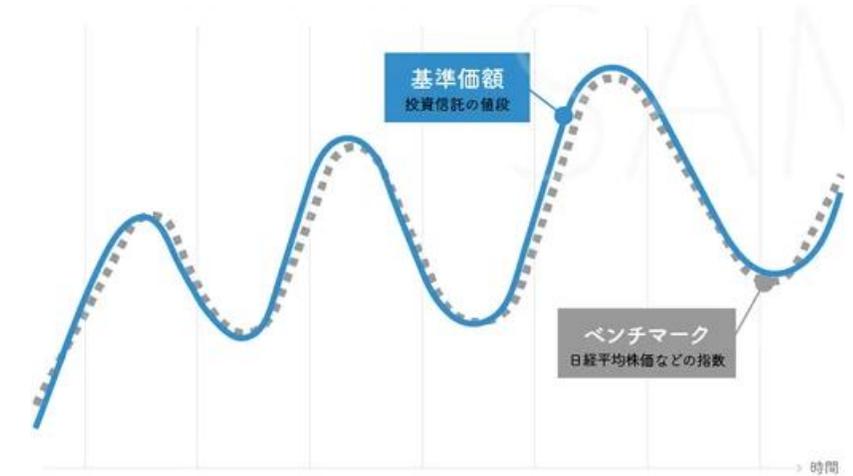
(6) 分配金

3. まとめ

(1)運用スタイル

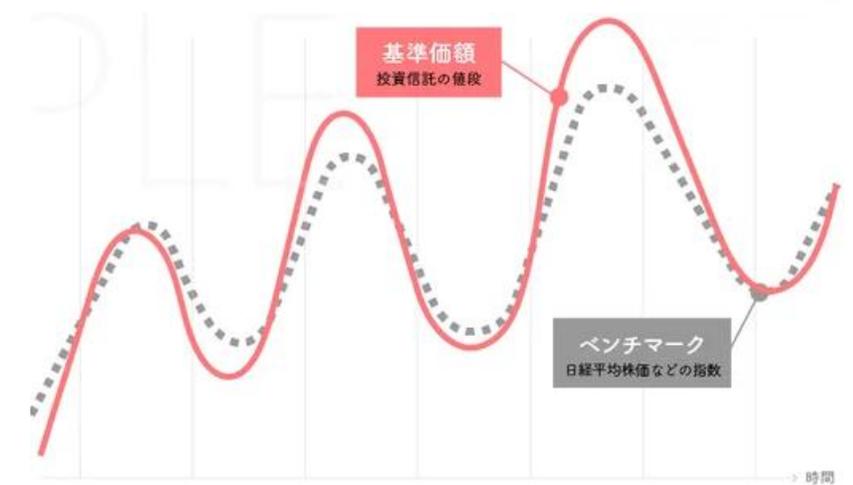
・インデックス型(パッシブ型)

ベンチマーク(株価指数)に連動する運用成果をあげることが
目標とする投資信託 → ローリスクローリターン傾向



・アクティブ型

ベンチマーク(株価指数)を上回る運用成果をあげることが
目標とする投資信託 → ハイリスクハイリターン傾向
投資先の詳しい分析調査に手間がかかるので、コストも高い



インデックス型はどの投資信託を購入しても成果は同じですが、
アクティブ型は投資信託によって様々な特色があります。

インデックス型のメリット

1. シンプルで分かりやすい

日経平均株価など特定の指数に連動する → 値動きがわかり易い

2. 低コスト

機械的かつ平均的に運用するだけ → コストを抑えられる

投資信託の種類	信託報酬手数料	
	最低～最高	平均
インデックス型ファンド	0.15%～0.88%	0.50%
アクティブ型ファンド	0.28%～2.18%	1.55%

3. 手間がかからない

特定の指数に連動する → 指標をチェックするだけでOK

4. 分散投資が可能

例) 日経平均株価に連動する投資信託 → 225社の株式に分散投資

5. リスクが小さい割に利益が期待できる

運用実績の比較(3年リターン)

	最小	平均	最大
インデックス型(51社)	4.75%	5.00%	5.33%
アクティブ型(630社)	-21.42%	1.73%	21.69%

2020年4月時点

- ✓ インデックス型 : 当たりはずれが無く成績も良い → どのファンドを買っても失敗しない
- ✓ アクティブ型 : 当たりはずれが大 → ファンド選びを間違えると大損する可能性が高い

1. 復習:何で運用すれば良い?(金融商品)

2. 投資信託の選び方

(1)運用スタイル

(2)手数料

(3)投資先

(4)投資のタイミング

(5)分散投資

(6)分配金

3. まとめ

(2)手数料？

購入時	買付手数料	販売会社に支払う手数料 (iDeCoは不要)
保有時	信託報酬手数料	販売会社、投資信託会社、信託銀行に支払う手数料 定期的に信託財産から差し引かれる
解約時	信託財産留保金	解約時に信託財産の中に残していかなければならない迷惑料、 投資信託によっては差引かれないものもある (iDeCoは不要)



投資信託の種類	保有時: 信託報酬手数料	
	最低～最高	平均
インデックス型	0.1%～0.88%	0.50%
アクティブ型	0.28%～2.18%	1.55%

特に保有時のコスト(信託報酬手数料)は運用中は常にかかるので注意が必要

3種類のコストは販売会社(金融機関等)のHP等で確認することができます。

投資対象 ▲	ファンド名 ▶ 投信会社 ▲	申込手数料 ▲	信託報酬 (年率・税込) ▲	信託財産 留保額 ▲	販売 停止
株式(国内)	ストックインデックスファンド225 ▶ 大和	2.20% (税抜 2.00%)	0.572%	信託財産留保額 はありません。	
株式(国内)	J P X日経400ノーロードオープン ▶ AM-One	0.00% (税抜 0.00%)	0.847%	信託財産留保額 はありません。	
株式(国内)	三井住友・日本株オープン ▶ 三井住友D.S	2.20% (税抜 2.00%)	0.88%	信託財産留保額 はありません。	
株式(国内)	ダイワ・バリュー株・オープン(愛称:底力) ▶ 大和	3.30% (税抜 3.00%)	1.672%	信託財産留保額 はありません。	
株式(国内)	ダイワ好配当日本株投信(愛称:季節点描) ▶ 大和	3.30% (税抜 3.00%)	1.375%	信託財産留保額 はありません。	
株式(国内)	日本健康社会応援ファンド(愛称:ワクワク・イキイキ) ▶ 大和	3.30% (税抜 3.00%)	1.573%	信託財産留保額 はありません。	
株式(国内)	株ちょファンド日本(高配当株・割安株・成長株)毎月分配型 (愛称:カブチョファンド) ▶ 日興	3.30% (税抜 3.00%)	1.7435%程度	0.3%	
株式(海外)	三井住友・DC新興国株式インデックスファンド ▶ 三井住友D.S	0.00% (税抜 0.00%)	0.374%	信託財産留保額 はありません。	
株式(海外)	One NYダウ・インデックス・ファンド ▶ AM-One	2.20% (税抜 2.00%)	0.66%	信託財産留保額 はありません。	
株式(海外)	アジア・オセアニア好配当成長株オープン(毎月分配型) ▶ 国三	3.30% (税抜 3.00%)	1.76%程度	0.3%	
株式(海外)	AI(人工知能)活用型世界株ファンド(愛称:ディープAI) ▶ AM-One	3.30% (税抜 3.00%)	1.584%	0.3%	

目安

- ・申込手数料
→できればゼロ
- ・信託報酬
→1%以下
インデックスファンド
なら0.1%以下



信託報酬手数料額の差の影響

例) 人気のeMAXISシリーズ

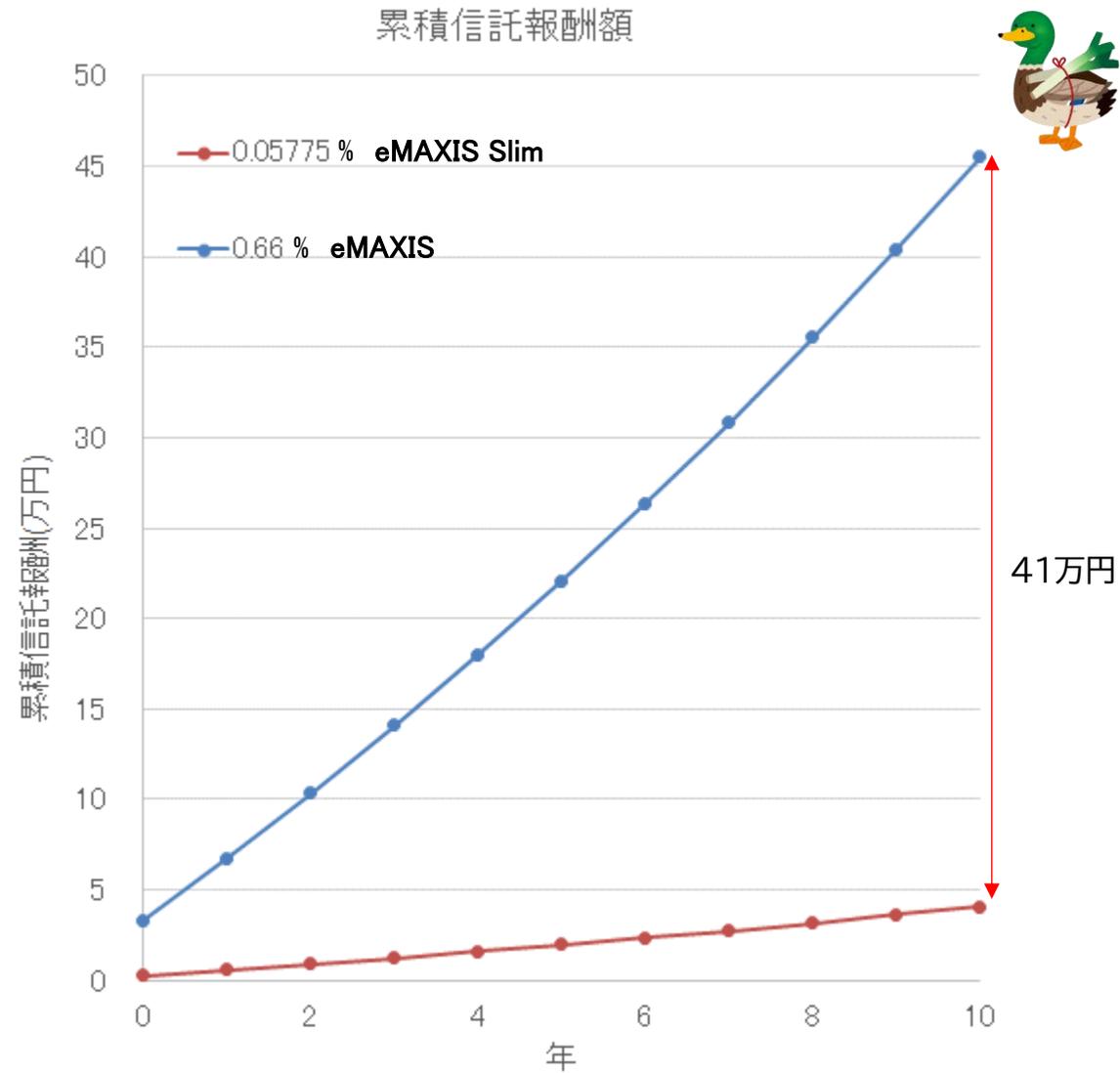
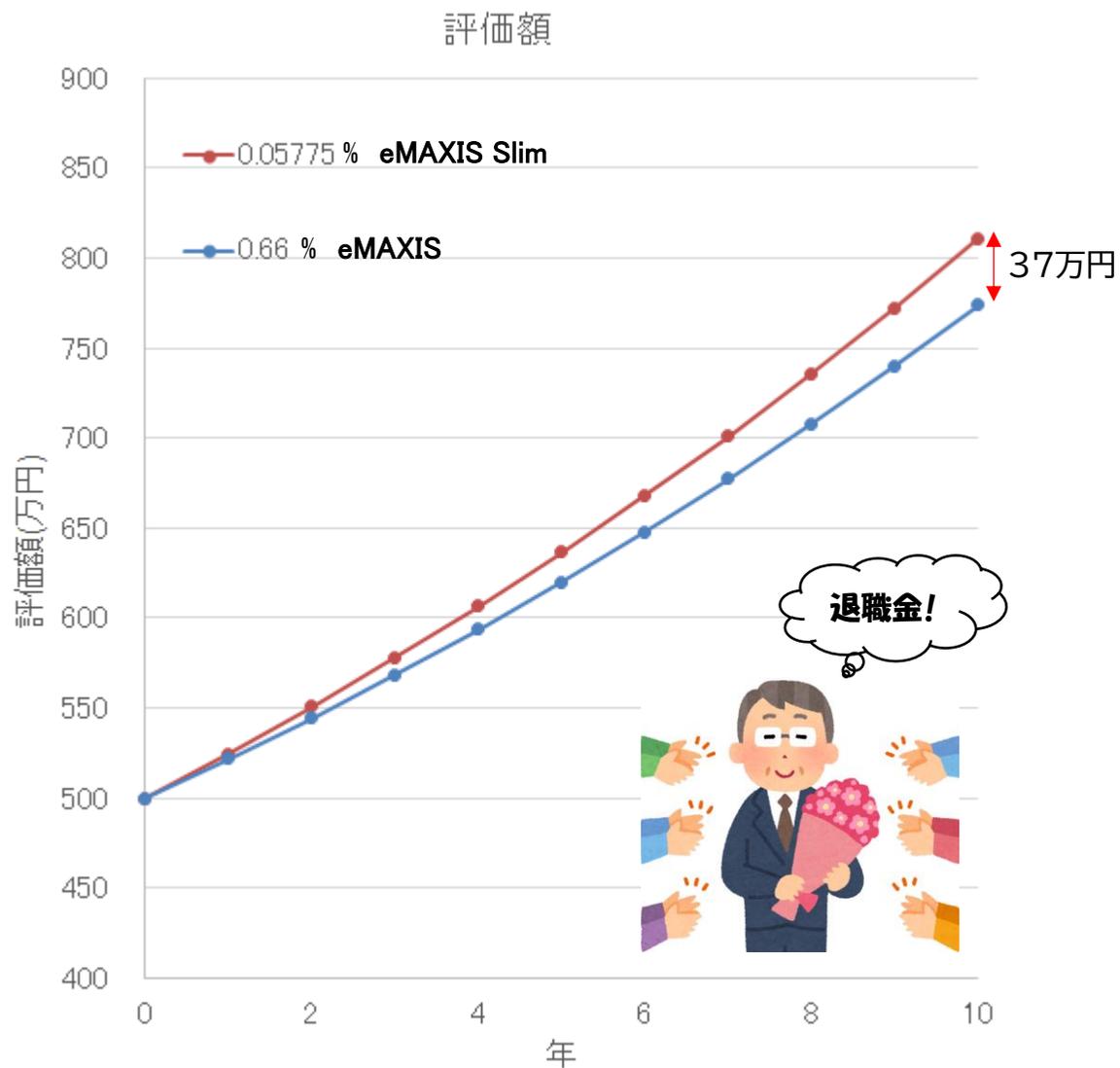
三菱UFJアセットマネジメントの

MSCIコクサイに連動するインデックスファンド

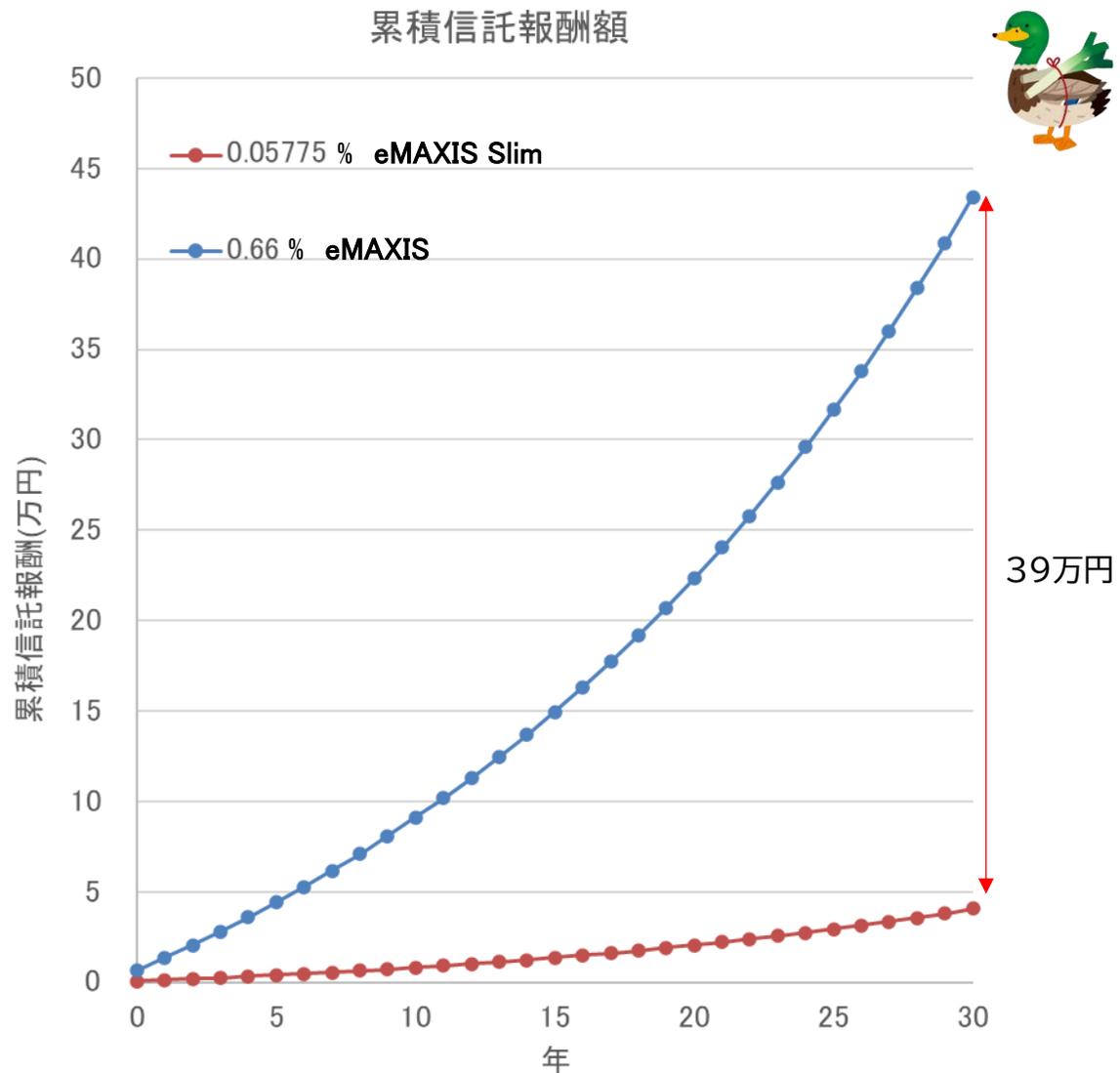
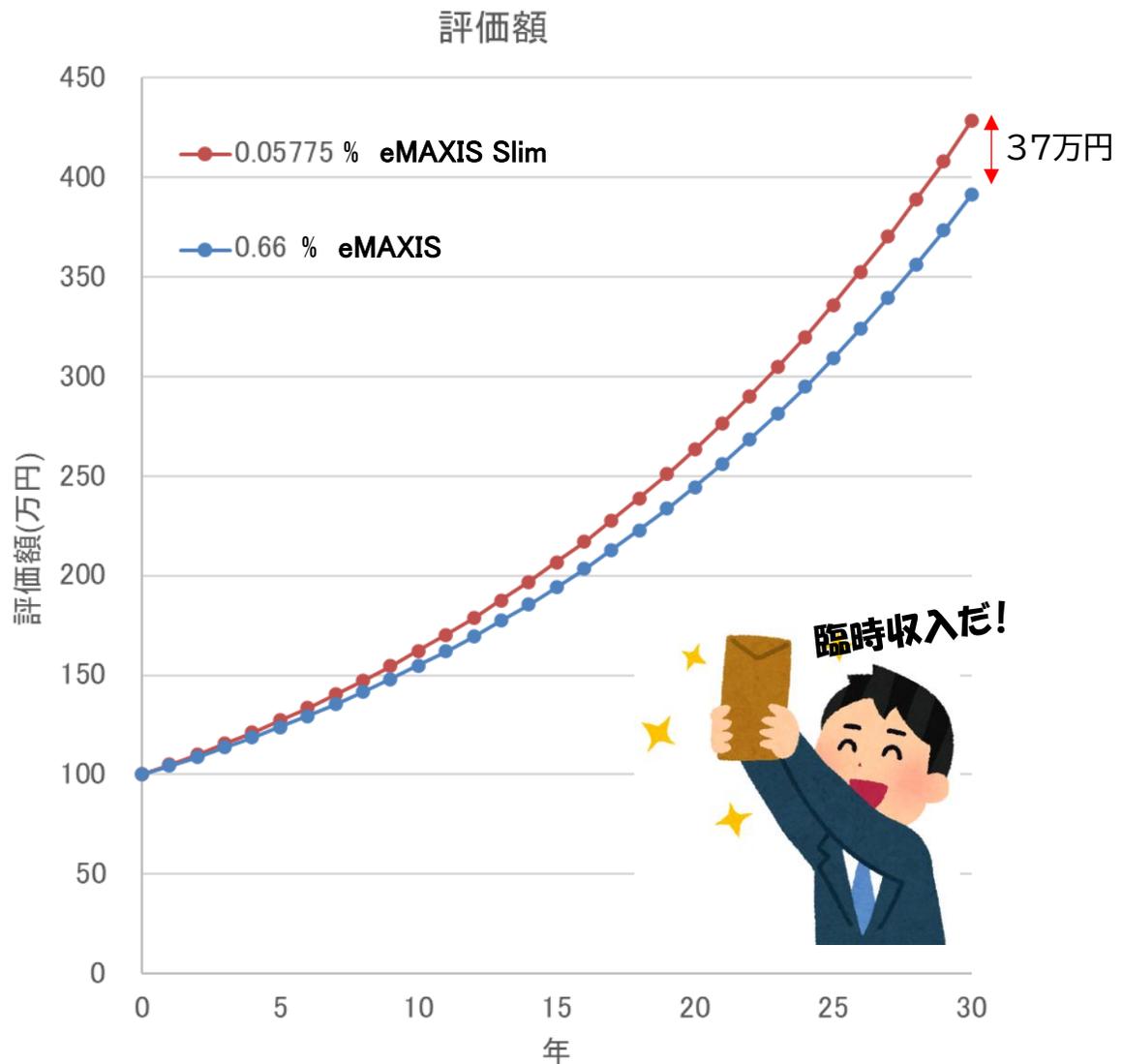


	運用成果		手数料		
	リターン	リスク	購入時	信託報酬	売却時
eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	35.21%	12.22	無し	0.05775%	無し
eMAXIS 全世界株式インデックス	34.23%	12.3	無し	0.66%	0.05%

例) 退職金の一部500万円を一括投資(利回り5%)で10年間運用した場合



例) 余裕資金100万円を一括投資(利回り5%)で30年間の長期運用した場合



1. 復習: 何で運用すれば良い? (金融商品)

2. 投資信託の選び方

(1) 運用スタイル

(2) 手数料

(3) 投資先

(4) 投資のタイミング

(5) 分散投資

(6) 分配金

3. まとめ

(3)投資先は？

種類	インデックス	構成銘柄
国内株	日経平均株価(日経225)	東証プライム上場銘柄のうち225銘柄
	東証株価指数(TOPIX)	東証上場銘柄(見直し中 ~2025/1)
外国株	NYダウ	米国を代表する30社
	S&P500	米国を代表する500社
	ナスダック総合指数	米国新興市場
	MSCIコクサイ・インデックス	日本以外の先進国の主要銘柄
国内債券	NOMURA-BPI総合	日本債券の主要銘柄
外国債券	シティグループ世界国債インデックス	先進国23か国の国際
国内不動産	東証REIT指数	東証に上場するJ-REIT全銘柄
外国不動産	S&P 先進国ERIT指数	先進国16か国のREIT銘柄

NHKニュースでもお馴染みのインデックス

		ニューヨーク市場		東京株式市場	
為替		株価		26日終値	
1ドル		ダウ平均		日経平均株価	
156円24 ~ 25銭		38,386ドル09セント 146ドル43セント ↑株高		3万7,934円76銭 306円28銭 ↑株高	
1ユーロ		ナスダック		東証株価指数 (TOPIX)	
167円37 ~ 38銭		15,983.084 55.184 ↑株高		2,686.48 22.95 ↑株高	

7:44:48

日経平均株価 40年間の推移

ここ10年間だけ見ると日本株も上昇している様に見える

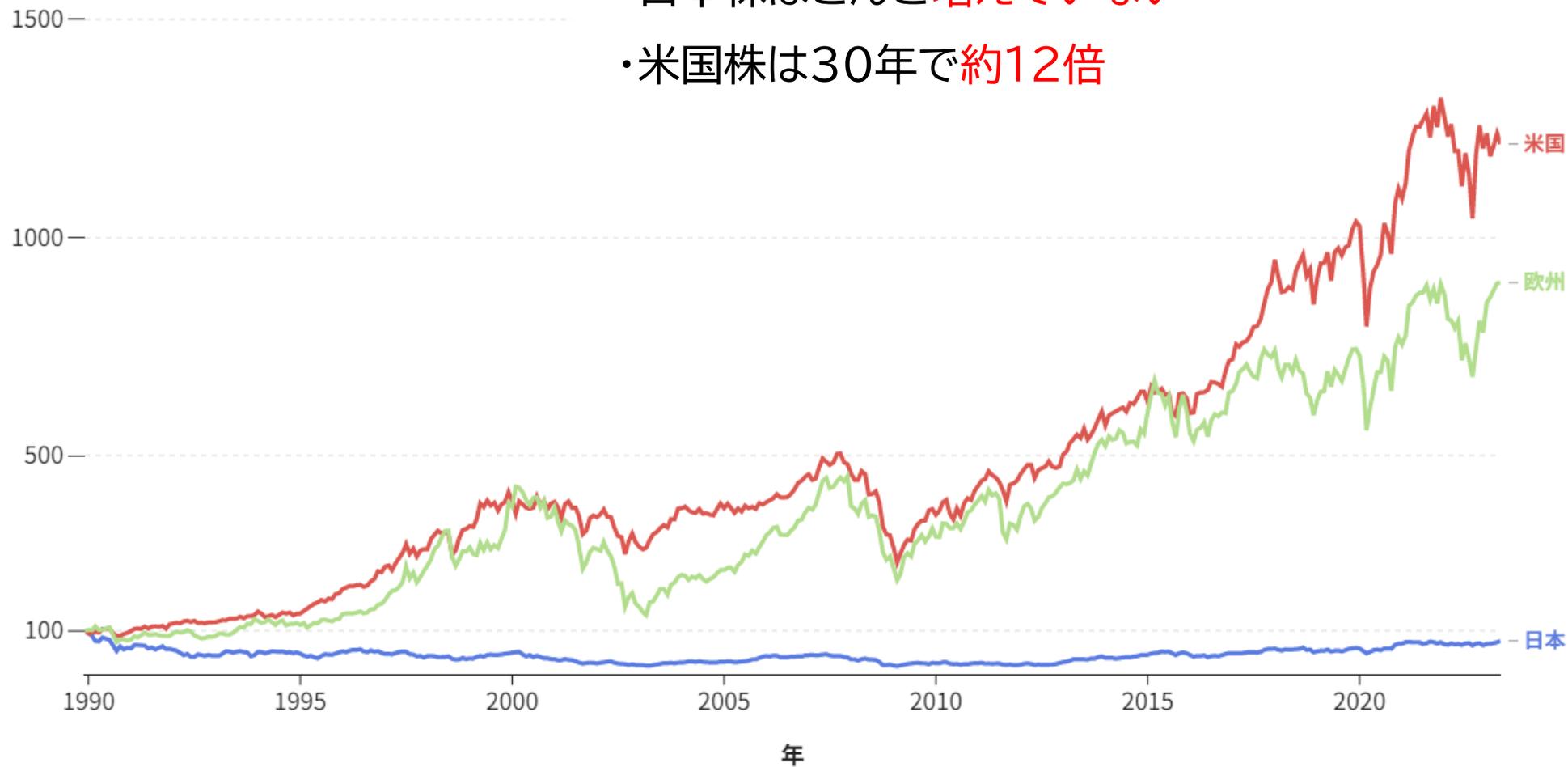


日経平均株価 海外株価との比較

過去30年で見ると日米間で圧倒的なパフォーマンスの差

- ・日本株ほとんど**増えていない**
- ・米国株は30年で**約12倍**

1989年末=100として指数化



なぜ米国株は強いのか？

- ・ハイテクIT企業(GAFAM)の圧倒的強さ



→ 時価総額は560兆円 → 東証プライム市場総額を上回る

- ・老舗企業の業績の強さ



といった老舗企業も着実に成長している

- ・経営者の姿勢の違い

米国の企業経営者は**株主の為に利益を上げる**ことを重要視する

⇔ 日本の企業経営者は**従業員の雇用を守る**ことを重要視する → 株主重視は建前

米国株式の主な株価指数

・NYダウ

NYダウはアメリカで最も古い株価指数で、正式名称を「ダウ工業株30種平均」
 米国市場に上場している企業から、ダウ・ジョーンズ社が成長性や投資家の関心の高さなどを踏まえて選んだ**30銘柄**で構成。日本の株式市場で言えば、日経225みたいな指数

・ナスダック総合指数

ナスダックに上場している**全銘柄**を対象1971年2月5日の時価総額を100として算出
 日本で言うと1968年1月4日の時価総額を100とするTOPIXに近いイメージ

・S&P500

S&P500は、NYSEとナスダックに上場している企業から代表的な**500銘柄**を
 スタンダード・アンド・プアーズ社が選定して算出する株価指数
 米国の2つの株式市場から500社を選んで指標化している点が特徴

1. 復習:何で運用すれば良い?(金融商品)

2. 投資信託の選び方

(1)運用スタイル

(2)手数料

(3)投資先

(4)投資のタイミング

(5)分散投資

(6)分配金

3. まとめ

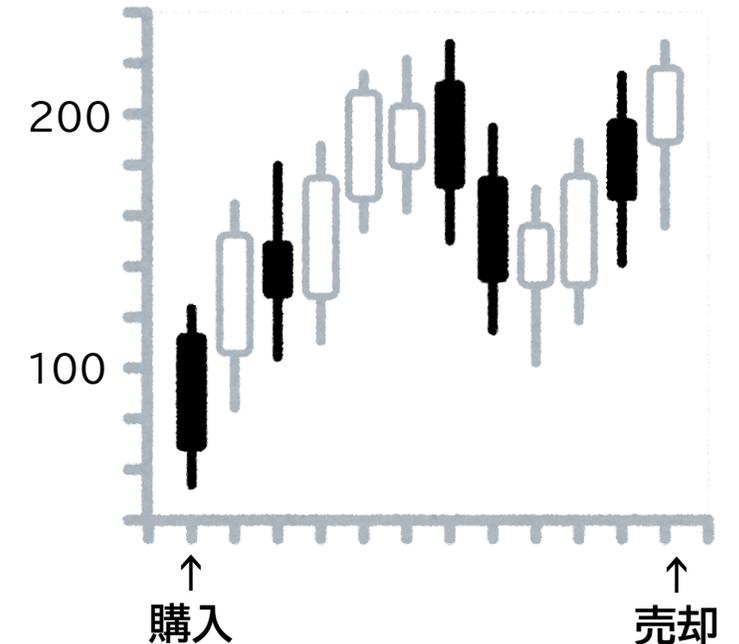
(4)投資のタイミング

① 一括投資(スポット購入)

1回でまとめて購入する方法

例)退職金など、まとまった資金が手元にある場合など

- ・短期で大きな成果が期待できる
 - 相場が急上昇した場合、短期間で大きなリターンが得られる
- ・まとまった資金と手間がかかる
 - 相場動向の見極めに注意(放ったらかしにする事はNG)
- ・リスクが大きい
 - 相場が急落した場合には損失を被るリスク



100万円で購入、200万円で売却
→100万円の利益

主にキャピタルゲイン狙いの投資(投機) → 購入と売却のタイミングが非常に重要
= 安い時に買って高い時に売る

② 積立投資(定額購入法)

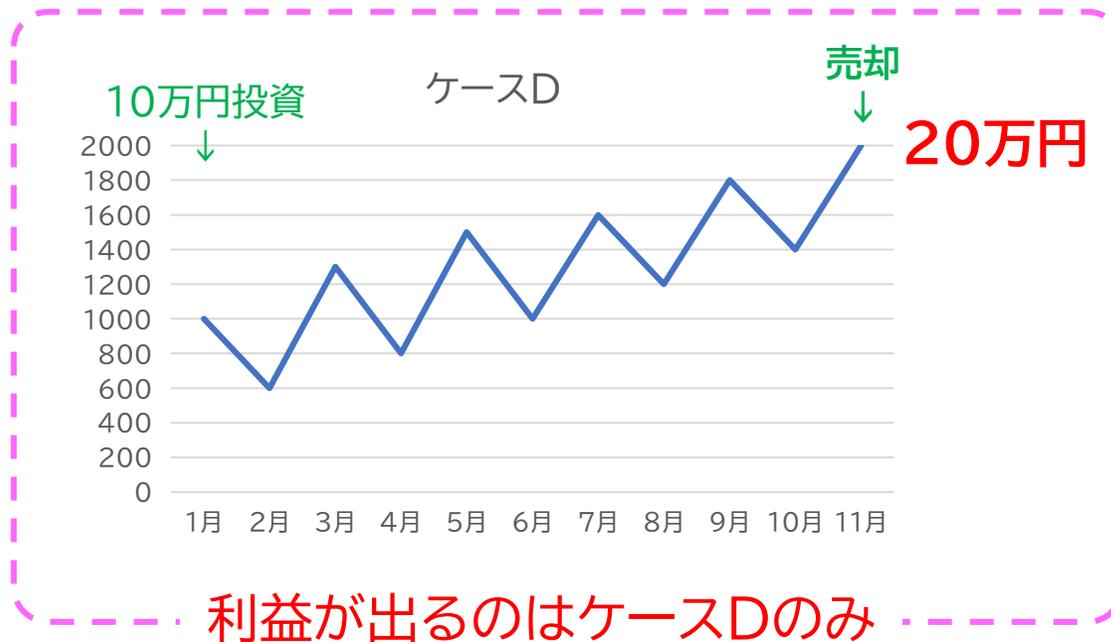
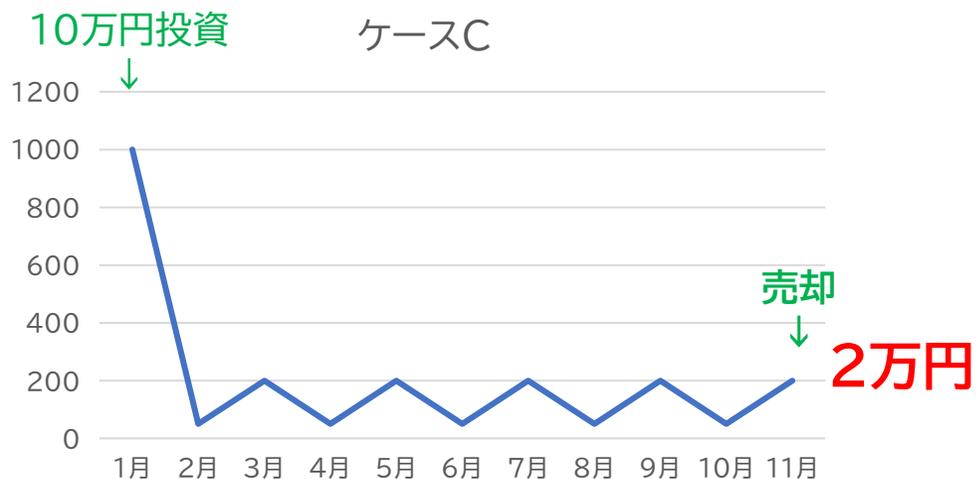
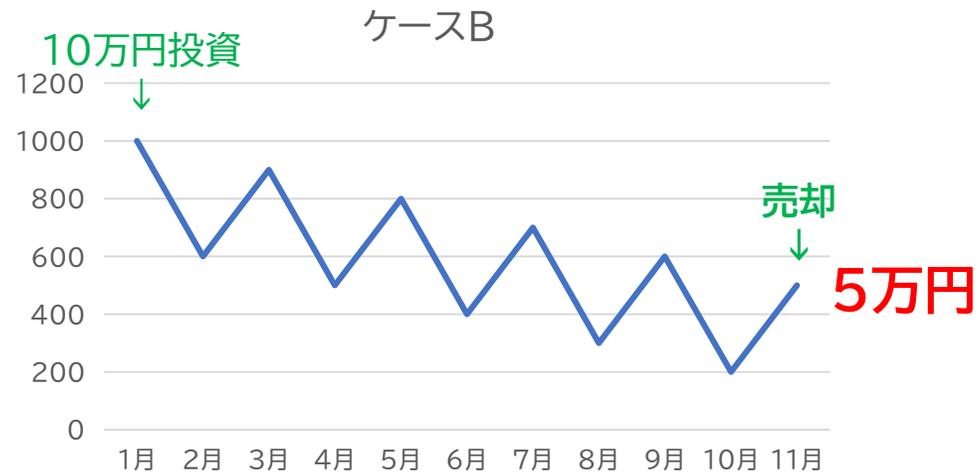
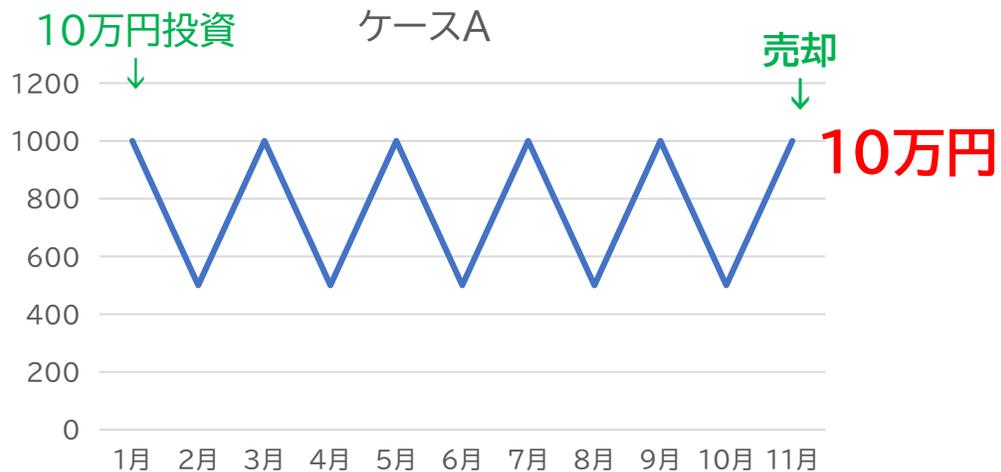
定期的に少額ずつ定額で投資信託を購入する方法

例)毎月3万円分ずつ購入するなど

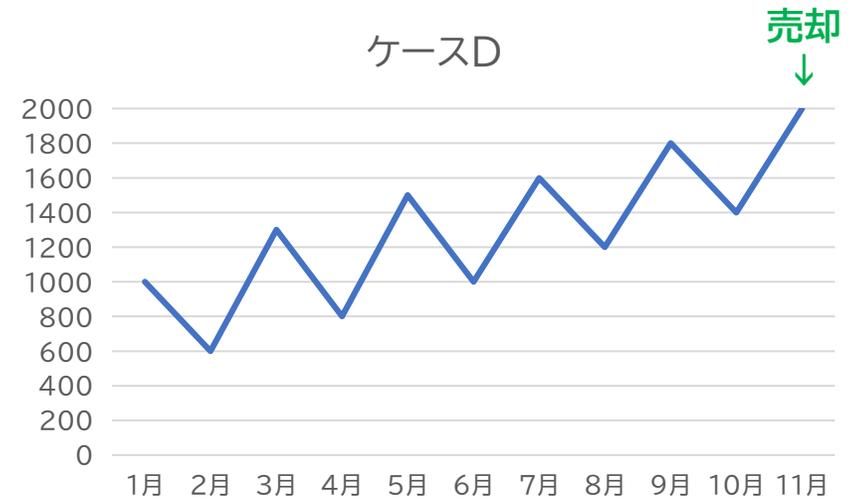
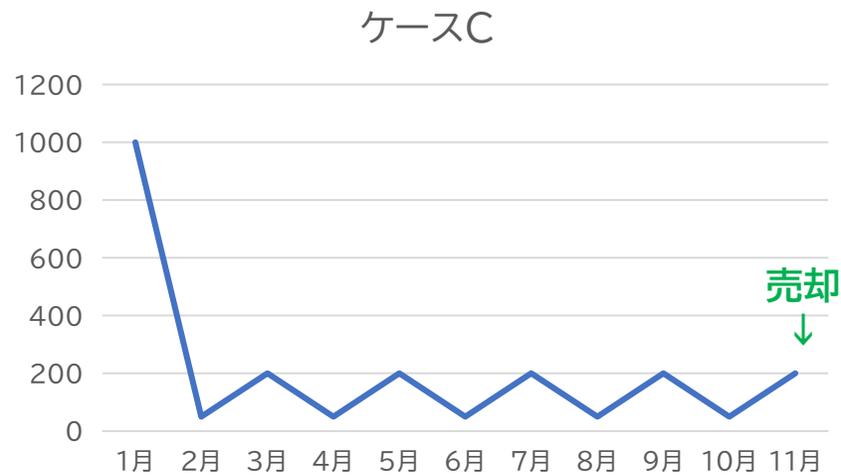
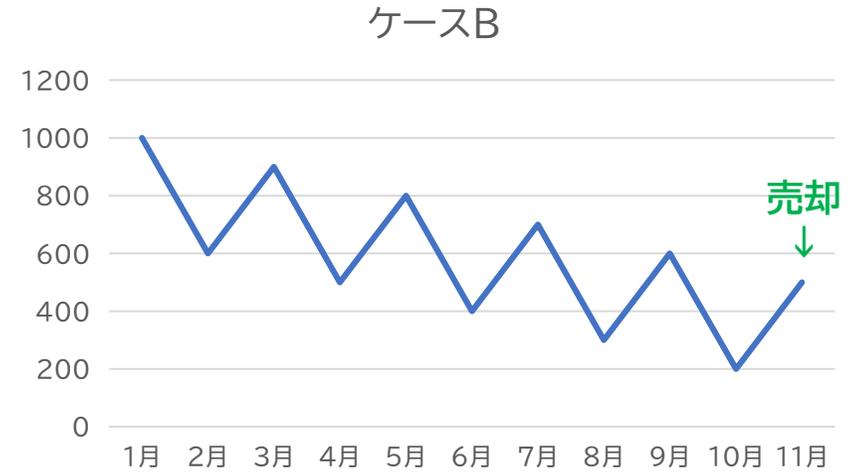
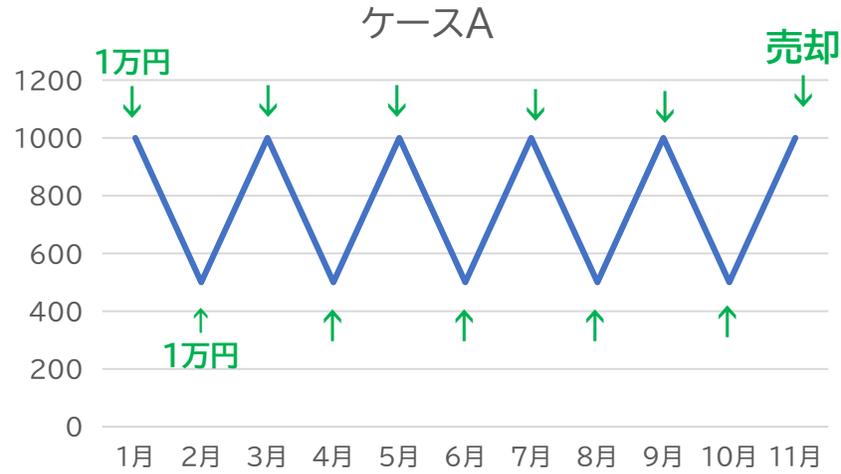
- 手間がかからない(放ったらかしでも良い)
 - 申込さえしてしまえば自動的に毎月購入されてゆく
- 長期継続による福利効果が高い
 - 毎月得た利益がその都度元本に組み入れられる
- 投資コストが高い
 - 長期継続する積立投資では信託報酬手数料の負担が大きい



質問)10万円を一括投資するならどの市場？

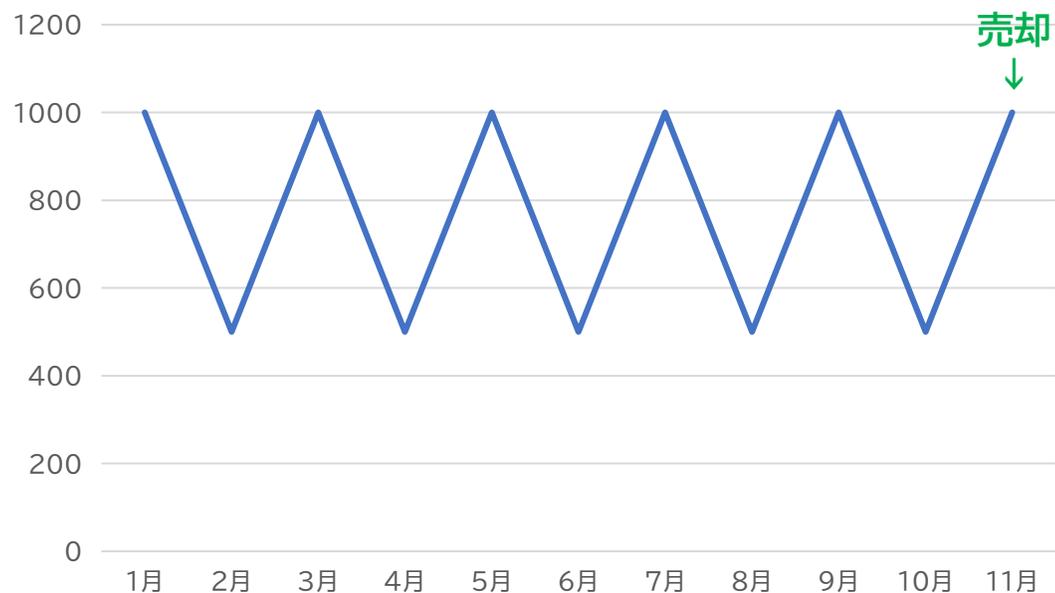


質問) 毎月1万円(計10万円)を積立投資するならどの市場？



計算例)

ケースA

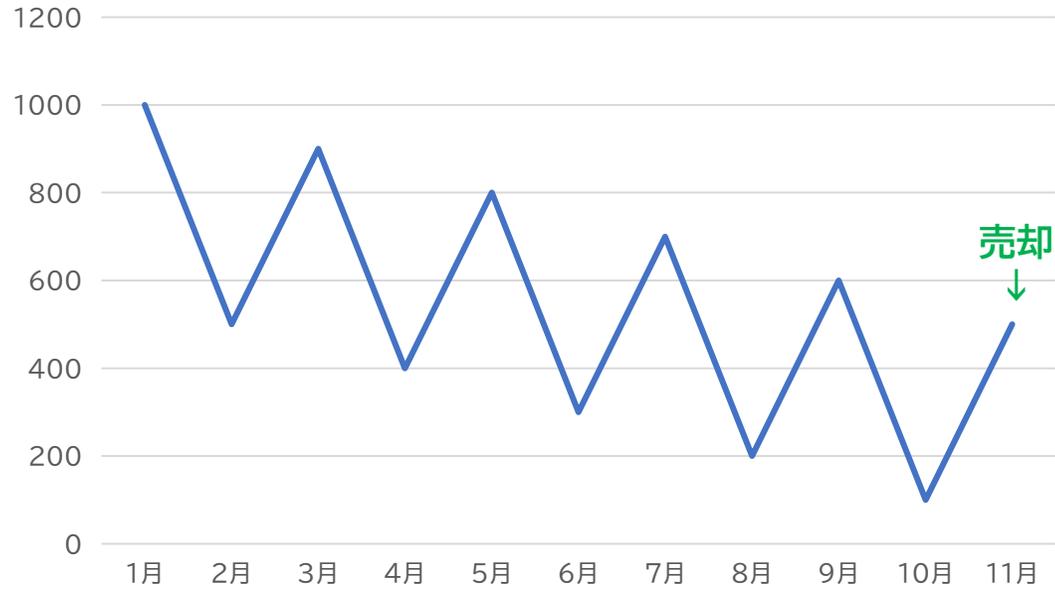


	価格	投資額	口数
1月	1,000円	10,000円	10口
2月	500円	10,000円	20口
3月	1,000円	10,000円	10口
4月	500円	10,000円	20口
5月	1,000円	10,000円	10口
6月	500円	10,000円	20口
7月	1,000円	10,000円	10口
8月	500円	10,000円	20口
9月	1,000円	10,000円	10口
10月	500円	10,000円	20口
合計		100,000円	150口

11月に全て売却すると
 $1,000円 \times 150口 = 150,000円$

計算してみよう: ケースB

ケースB



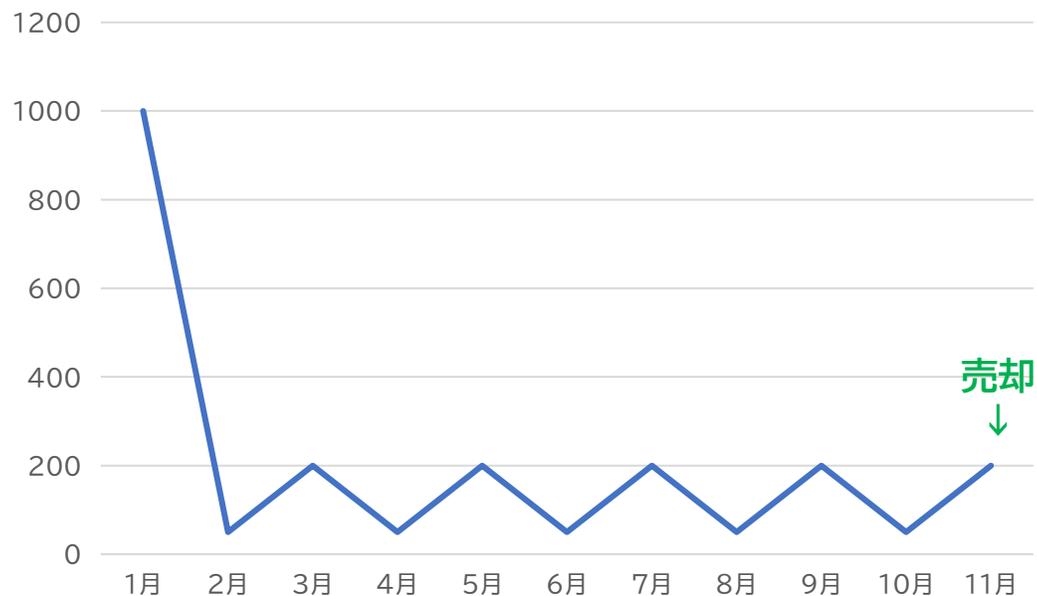
	価格	投資額	口数
1月	1,000円	10,000円	10口
2月	500円	10,000円	20口
3月	900円	10,000円	11.11口
4月	400円	10,000円	25口
5月	800円	10,000円	12.5口
6月	300円	10,000円	33.33口
7月	700円	10,000円	14.29口
8月	200円	10,000円	50口
9月	600円	10,000円	16.67口
10月	100円	10,000円	100口
合計		100,000円	292.9口

11月に全て売却すると

$$500円 \times 292.9口 = 146,450円$$

計算してみよう: ケースC

ケースC

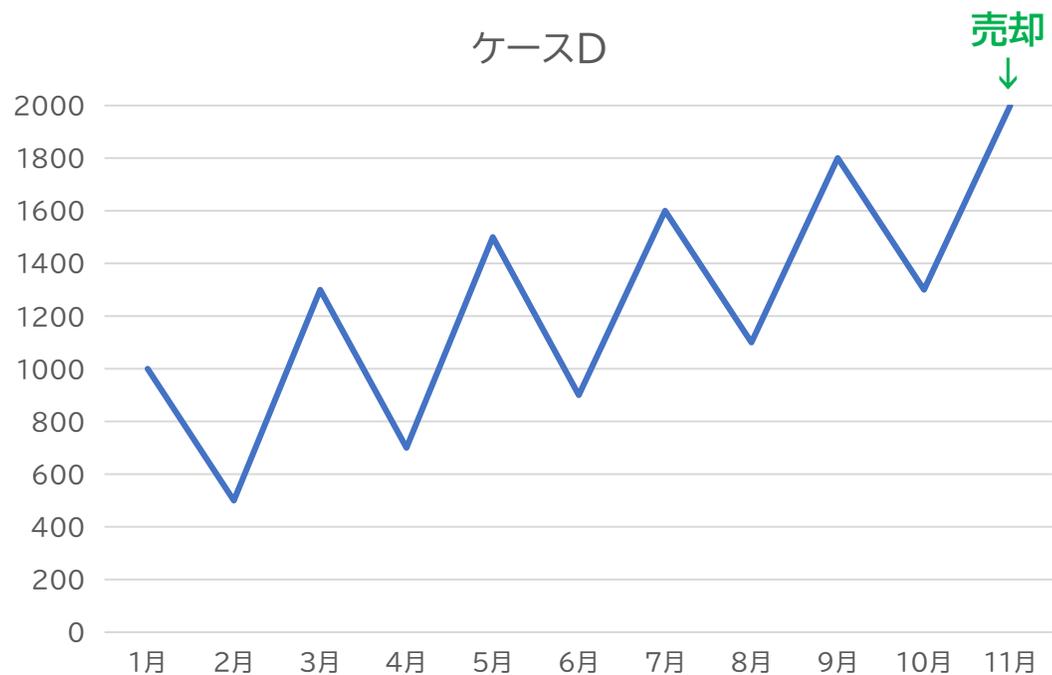


	価格	投資額	口数
1月	1000円	10,000円	10口
2月	50円	10,000円	200口
3月	200円	10,000円	50口
4月	50円	10,000円	200口
5月	200円	10,000円	50口
6月	50円	10,000円	200口
7月	200円	10,000円	50口
8月	50円	10,000円	200口
9月	200円	10,000円	50口
10月	50円	10,000円	200口
合計		100,000円	1,210口

11月に全て売却すると

$$200円 \times 1,210口 = 242,000円$$

計算してみよう：ケースD

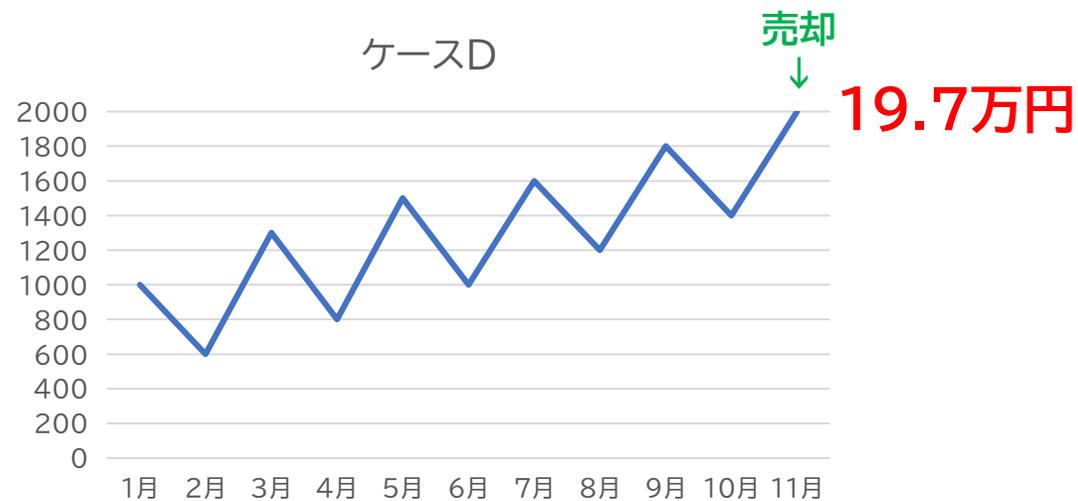
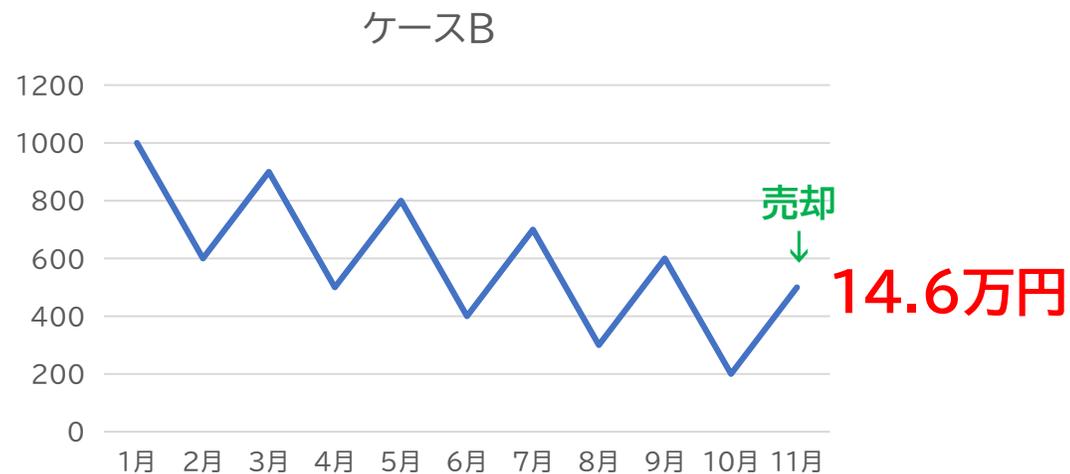
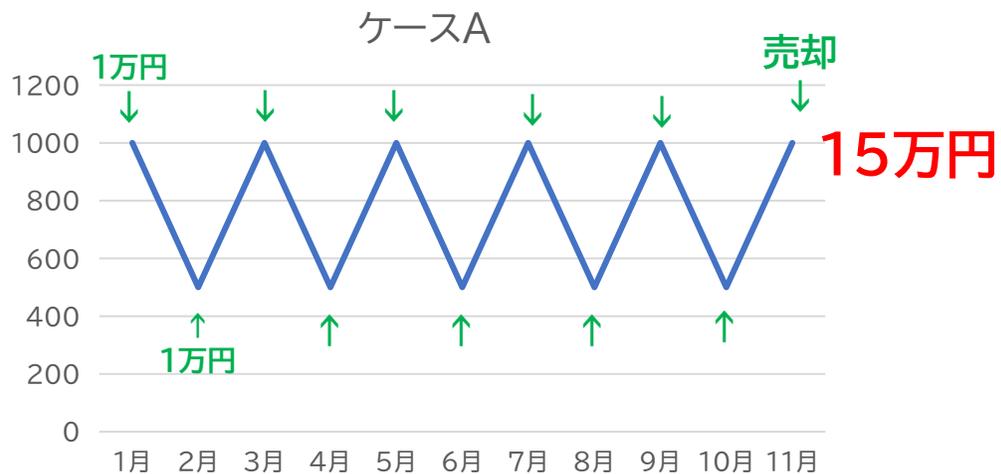


	価格	投資額	口数
1月	1,000円	10,000円	10口
2月	500円	10,000円	20口
3月	1,300円	10,000円	7.69口
4月	700円	10,000円	14.29口
5月	1,500円	10,000円	6.67口
6月	900円	10,000円	11.11口
7月	1,600円	10,000円	6.26口
8月	1,100円	10,000円	9.09口
9月	1,800円	10,000円	5.56口
10月	1,300円	10,000円	7.69口
合計		100,000円	98.34口

11月に全て売却すると

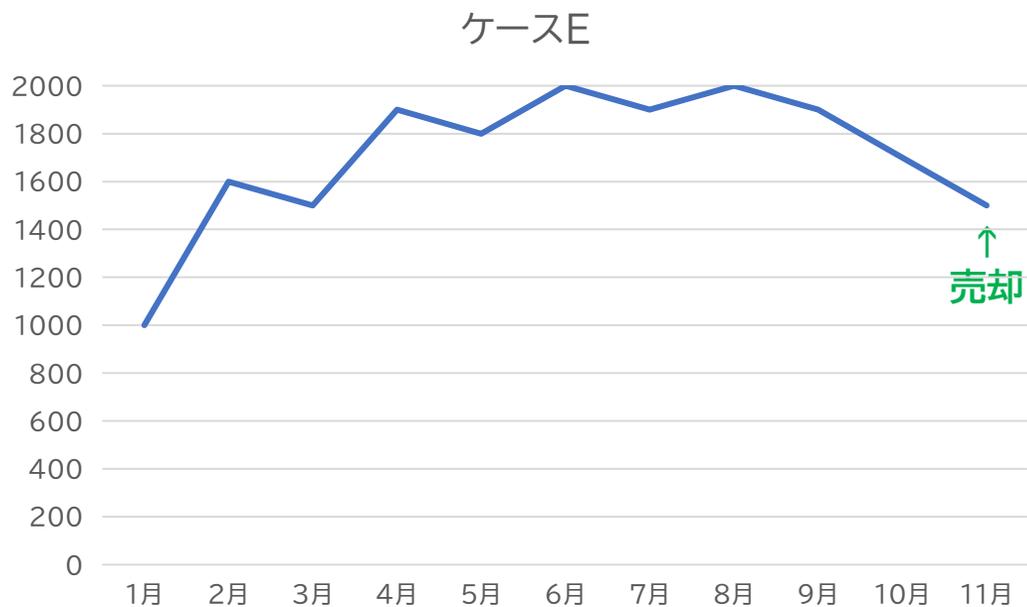
$$2,000円 \times 98.34口 = 196,680円$$

質問) 毎月1万円(計10万円)を積立投資するならどの市場？



全てのケースで利益が出ている = **ドルコスト平均法**

積立投資でも損をする場合がある(例) → 下落時に売却



	価格	投資額	口数
1月	1,000円	10,000円	10.00口
2月	1,600円	10,000円	6.25口
3月	1,500円	10,000円	6.67口
4月	1,900円	10,000円	5.26口
5月	1,800円	10,000円	5.56口
6月	2,000円	10,000円	5.00口
7月	1,900円	10,000円	5.26口
8月	2,000円	10,000円	5.00口
9月	1,900円	10,000円	5.26口
10月	1,700円	10,000円	5.88口
合計		100,000円	60.14口

11月に全て売却すると

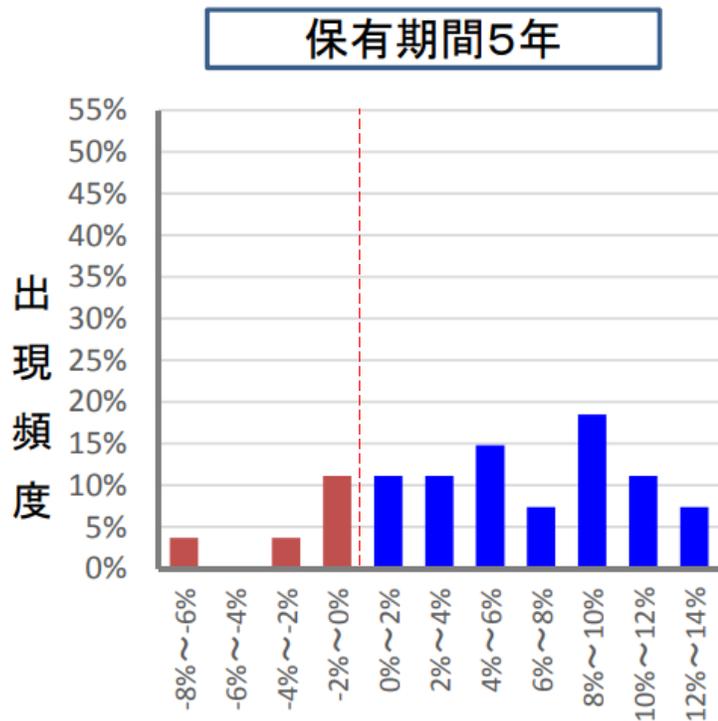
$$1,500円 \times 60.14口 = 90,210円$$

利益

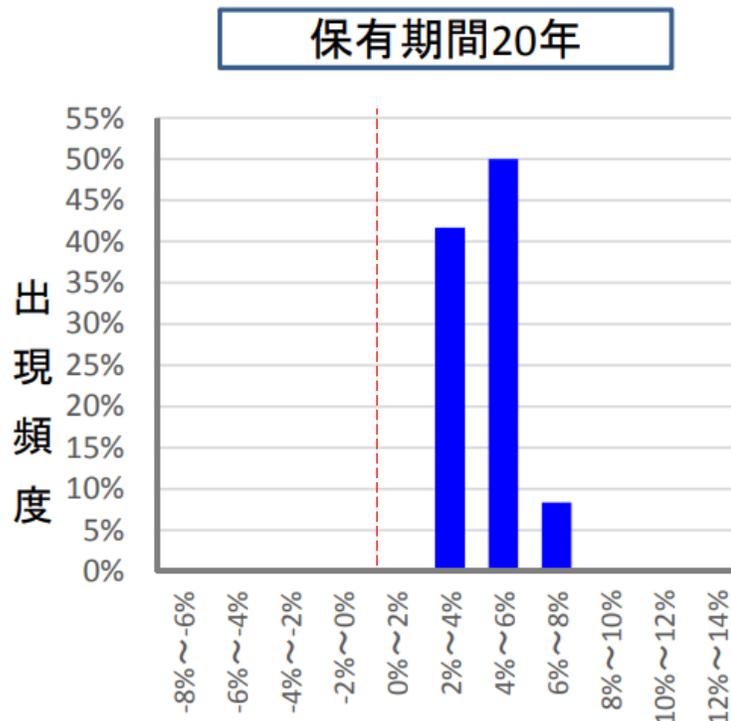
$$90,210円 - 100,000円 = -9,790円$$

長期積立て投資の効果

20年の保有期間では、投資収益率2~8%(年率)に収束



100万円が5年後に
↓
72万円~173万円



100万円が20年後に
↓
185万円~321万円

「退職金」や「遺産」など多額の資金の運用も、まとめて投資ではなく、できれば10年以上、少なくとも4~5年の積立てが望ましい

例) 毎月10万円の積立投資
= 10年間で1,200万円を投資
↓
10年後に1,509万円

出典:金融庁 家計の安定的な資産形成に関する有識者会議(平成29年2月3日)

1. 復習:何で運用すれば良い?(金融商品)

2. 投資信託の選び方

(1)運用スタイル

(2)手数料

(3)投資先

(4)投資のタイミング

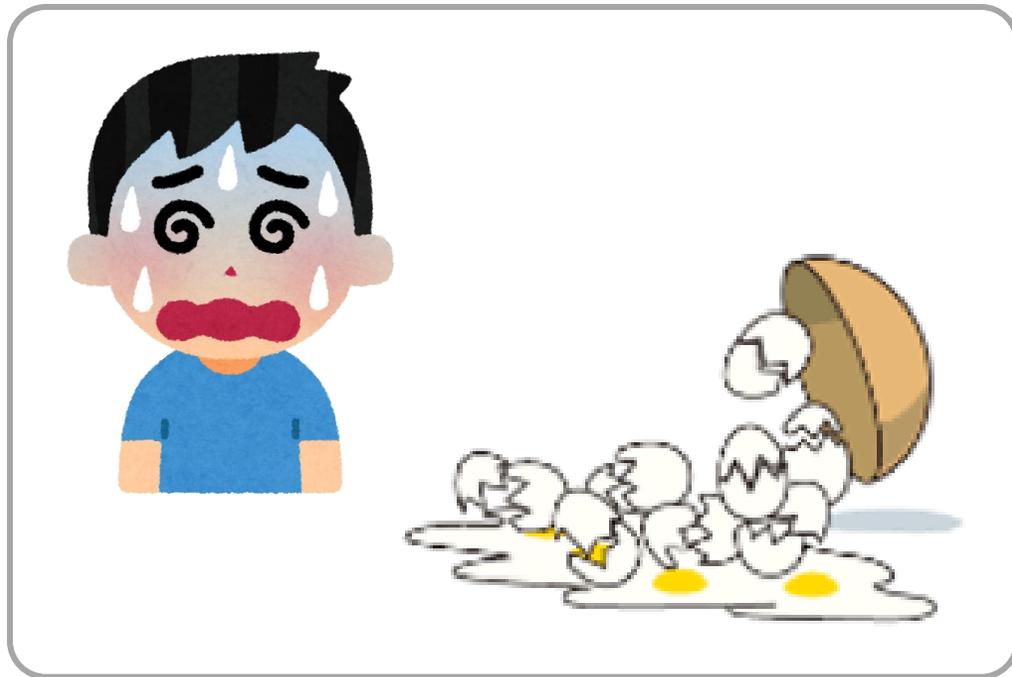
(5)分散投資

(6)分配金

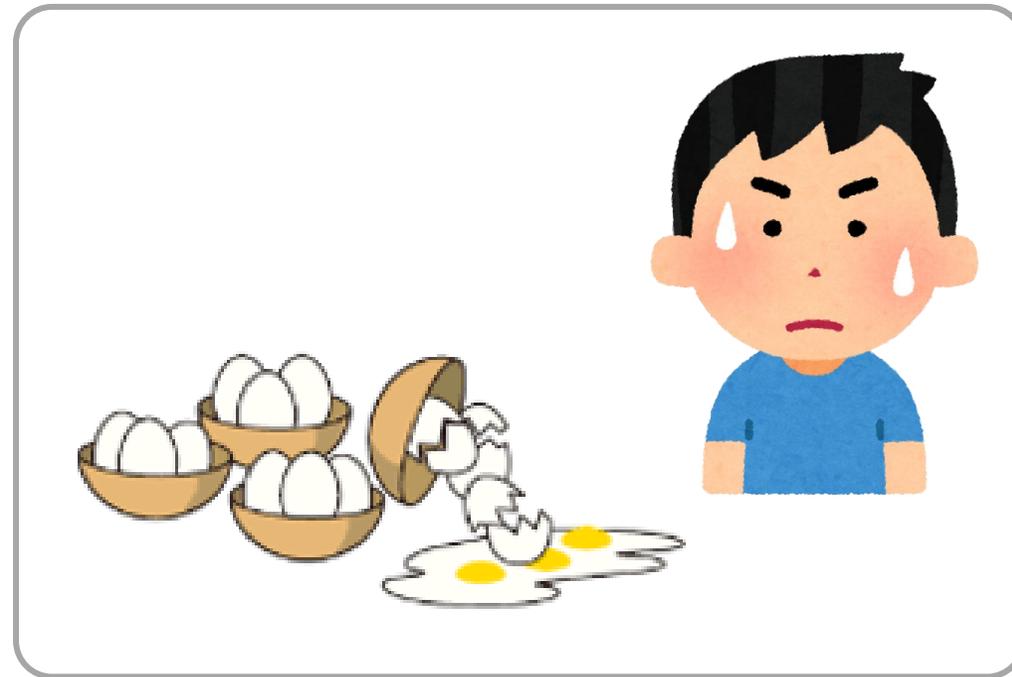
3. まとめ

(5)分散投資

投資の世界の格言「1つのカゴに卵を盛るな」



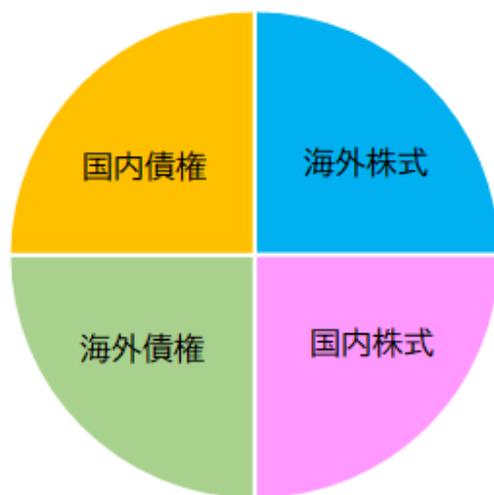
卵を1つのカゴに全部入れた場合
 (投資先が1つの場合)
 →落とすと全部ダメになる



複数のカゴに分けた場合
 (投資先を分けた場合)
 →1つ落としてしまっても、残りは大丈夫

3つの分散投資方法

資産の分散



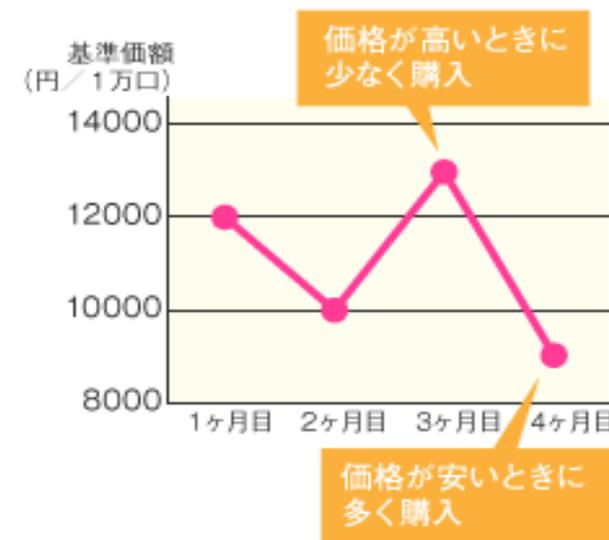
特徴の異なる複数の
資産を組み合わせる

地域の分散



複数の地域や通貨を
組み合わせる

時間の分散

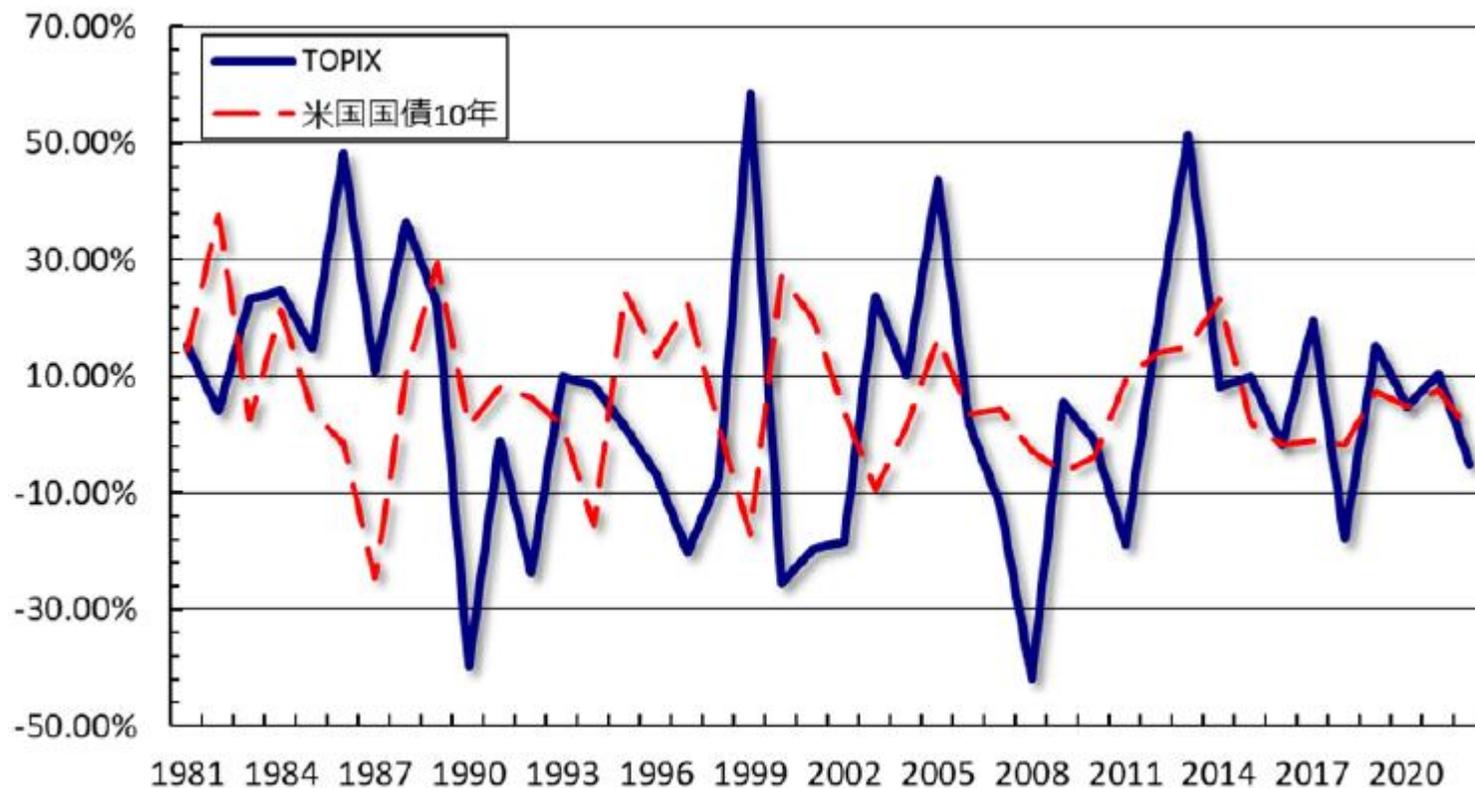


投資のタイミングを
何度かに分ける
→ドルコスト平均法

資産の分散例

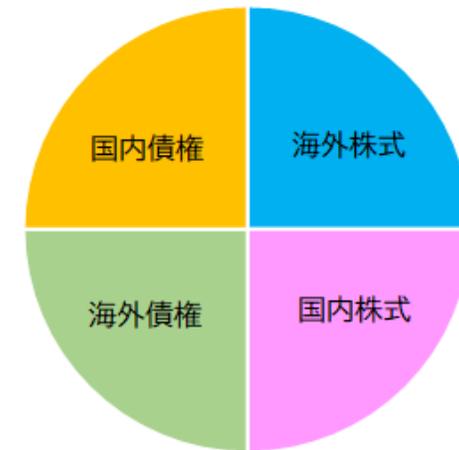
値動きの異なる資産を組み合わせるのが分散投資の基本 → リスク(ブレ幅)を小さくできる

例)
株式と債券の値動き
は逆になる傾向

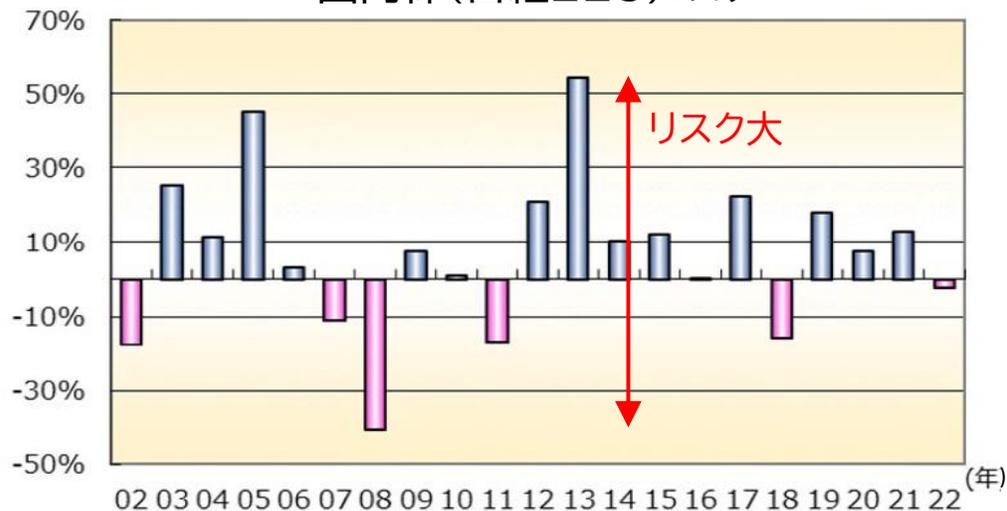


・国内株式 ・海外株式 ・国内債券 ・海外債券 ・国内REIT ・海外REIT etc

分散投資の効果例



国内株(日経225)のみ



日経225、国内債券、S&P500、米国債券



疑問) 何故分散投資するとリスク(ブレ幅)が小さくなるの? →詳しくは次回に解説します

1. 復習: 何で運用すれば良い? (金融商品)

2. 投資信託の選び方

(1) 運用スタイル

(2) 手数料

(3) 投資先

(4) 投資のタイミング

(5) 分散投資

(6) 分配金

3. まとめ

(6)分配金

運用によって得られた収益を決算ごとに投資家(投資信託の購入者)に分配するお金のこと(インカムゲイン)

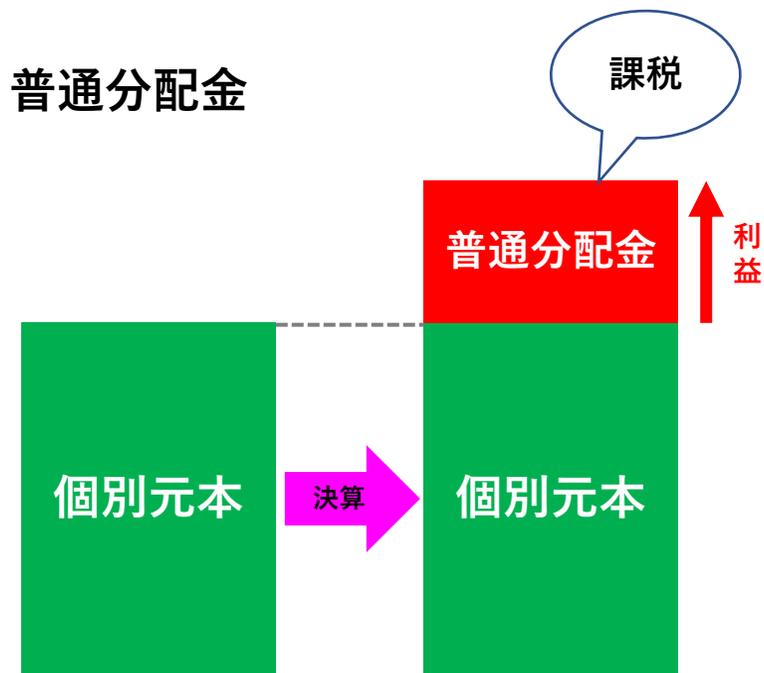
利息や配当金との違い

- ・預貯金の利息 : 事前に決められた利率にもとづいて支払われる
- ・株式の配当金 : 投資先の企業が利益の一部を投資家に支払う
- ・分配金 : 投資信託の運用状況に応じて、運用会社から支払われる

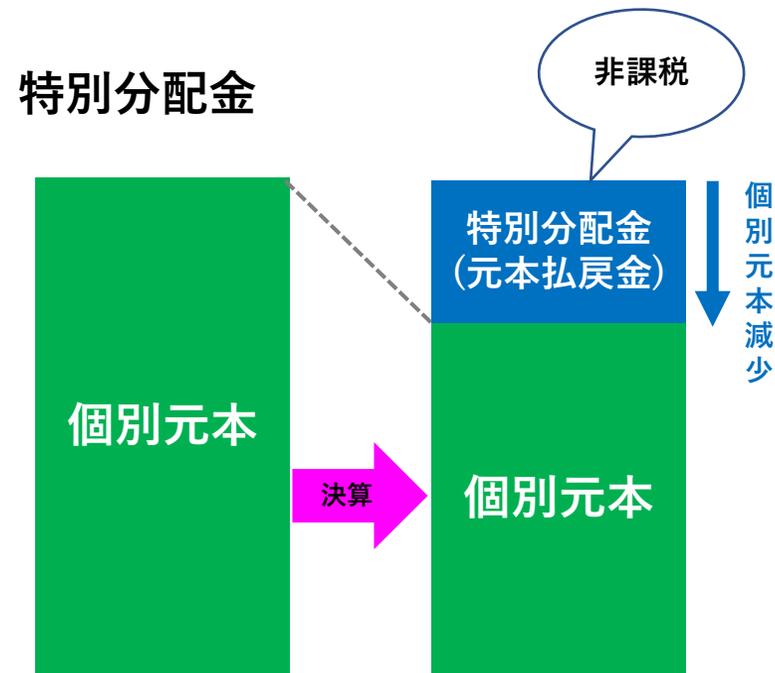
分配金の種類

普通分配金と特別分配金があります →次頁で簡単に説明いたします

普通分配金と特別分配金



運用によって得られた利益
 (=元本を上回った分)を投資家に支払う
 普通分配金は投資家の利益になるので、
課税対象

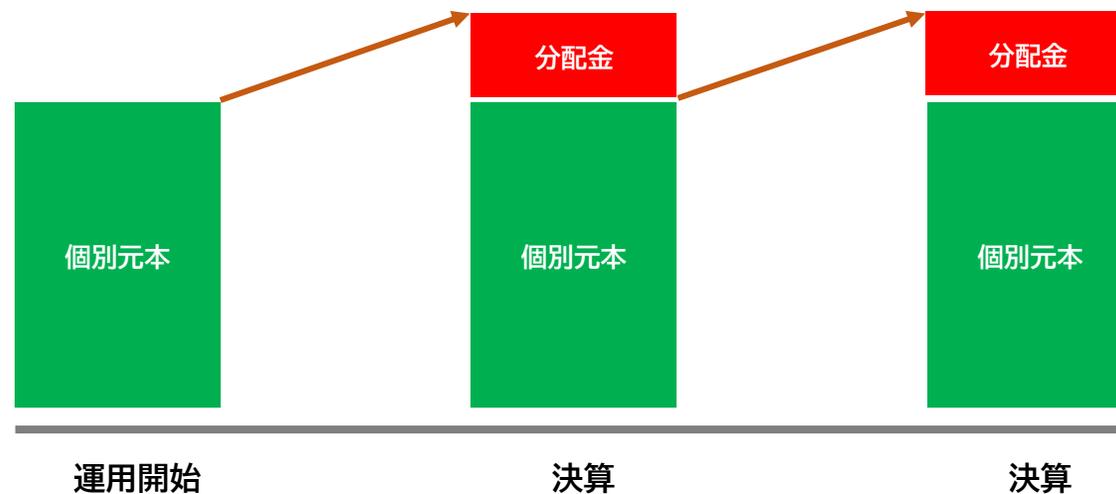


個別元本を下回る部分から支払われる分配金
 払い戻された特別分配金の額だけ個別元本は減少
 特別分配金は「元本の一部が戻ってきただけ
 (利益ではない)」という考え方なので**非課税**

分配金は受け取った方が得？

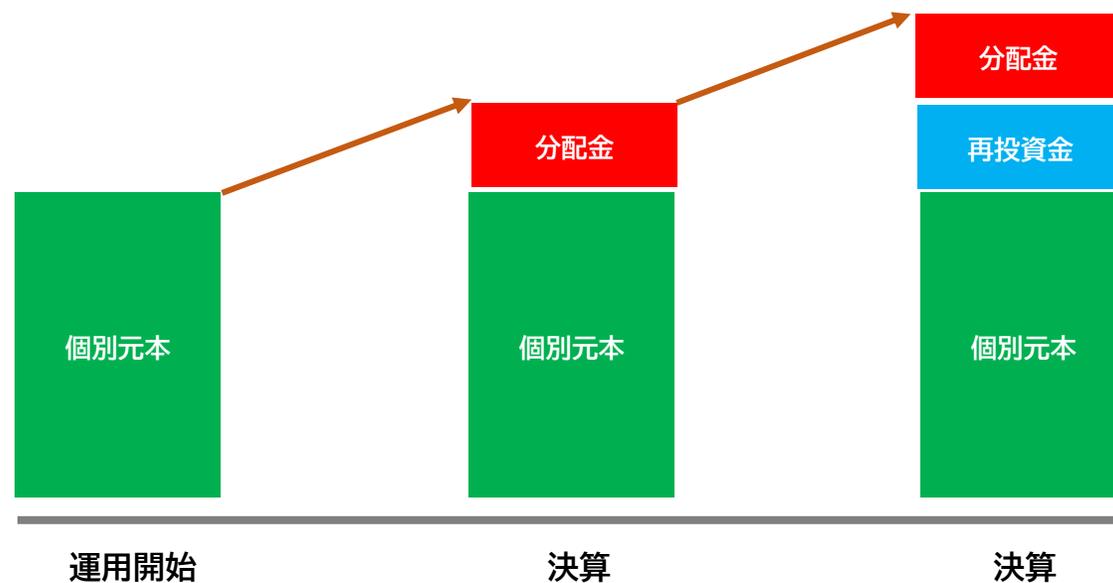
分配金を受け取る場合

- ・定期的な収入
- ・運用資産の減少
(元本が増えない)
- ・運用効率が悪い



分配金を受け取らない場合

- ・運用資産が増える
(元本が増える)
- ・運用効率が良い



分配金無しの投資信託もあります

分配金無しのファンドを選ぶ or 分配金は受け取らず、再投資に回す

1. 復習: 何で運用すれば良い? (金融商品)

2. 投資信託の選び方

(1) 運用スタイル

(2) 手数料

(3) 投資先

(4) 投資のタイミング

(5) 分散投資

(6) 分配金

3. まとめ

本日のまとめ

- 初心者には株式で運用する**投資信託**の購入がお勧め
- 投資信託は(米国株を含む)海外株で運用する**インデックス型**から始めよう
→ S&P500 や オールカントリー
- **手数料**(特に信託報酬手数料)に注意
- 一括投資よりも**長期・積立投資**がリスクが少ないのでお勧め
- 可能であれば他にも含めた**分散投資**が望ましい
→ 次回詳しく説明します
- 分配金無しのファンド or 分配金は受け取らず、
再投資するのがお得



次回

↓誤記修正をお願いします

第4回:12月1日(月)

一歩進んだ資産運用とリスク対策

～投資信託・株式から出口戦略まで～

持ち物)

- ・筆記用具
- ・電卓

ご清聴
ありがとうございました



資料・帳票のダウンロードURL

<https://daredemo-fp.com/text-dl/>

